

## 農林水産物の生産等概況について

### 1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

### 2 現状・背景

—

### 3 概要

#### (1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

#### (2) 調査期間

令和5年2月～令和5年5月

#### (3) 調査結果

#### ア 農産物

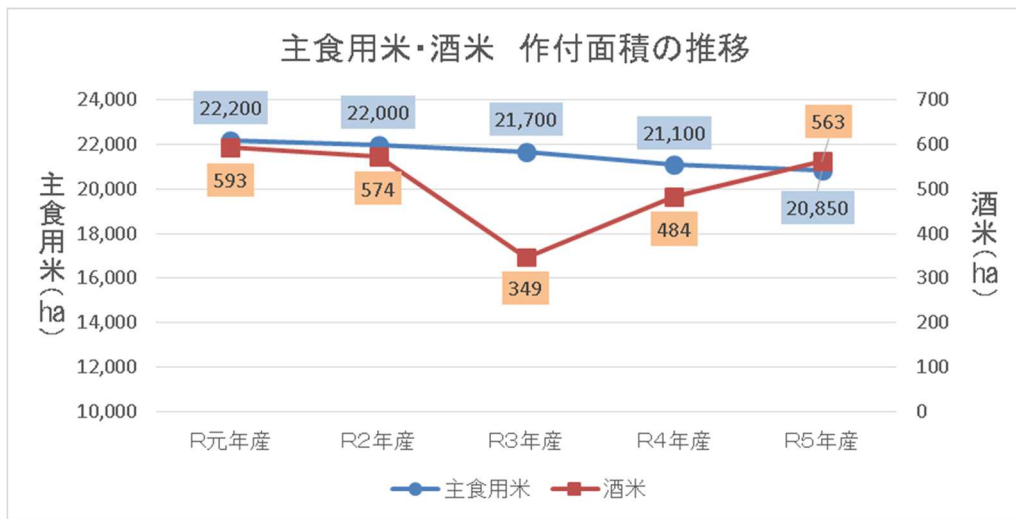
#### (7) 普通作物の生産状況

##### a 水稲

5月末現在の主食用米の作付面積は前年より約250ha減少し、20,850haと見込んでいる。

一方、コロナ禍の影響により需要が減少していた酒造好適米（酒米）の作付面積は、令和4年産から回復に転じており、令和5年産は前年から約80ha増の563haと見込まれ、コロナ禍前の水準に戻っている。

現在、田植えは前年同様に9割近くが終了しており、生育は順調である。



##### b 大豆

大豆は三次市、東広島市等で栽培され、作付面積は前年同様の410haと見込んでいる。

現在、播種作業が始まっているところであり、7月下旬に終了する予定である。

(イ) 野菜の生産状況

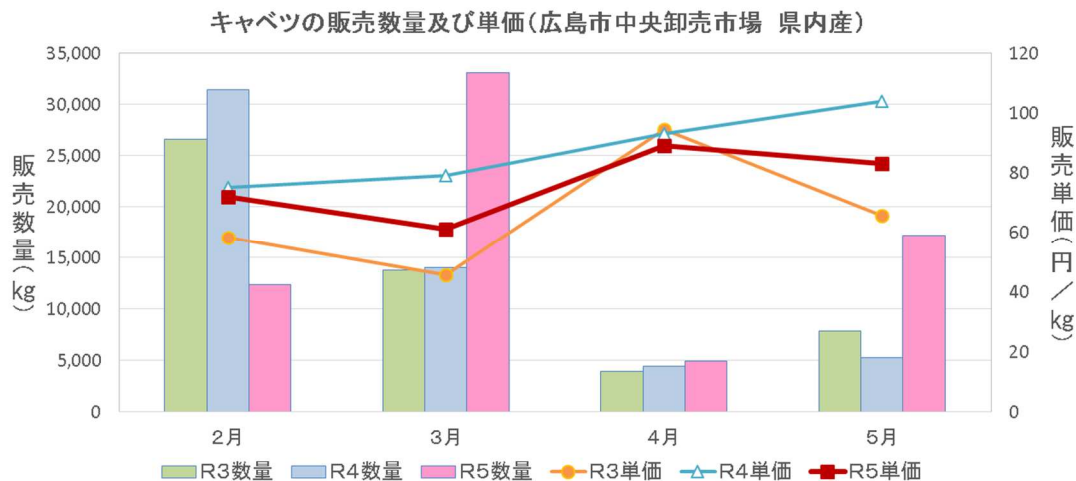
a キャベツ

主に尾道市因島や江田島市等の県南部から出荷されている。

生育は順調で、例年同様に2月から3月が出荷のピークとなったが、今年はきぬさやえんどうの生育が早まったため収穫作業に追われ、キャベツの収穫ピークが3月にずれ込んだ。

5月は大規模経営体が広島市中央卸売市場を經由して出荷を行ったため、販売数量は前年に比べ大きく増加した。

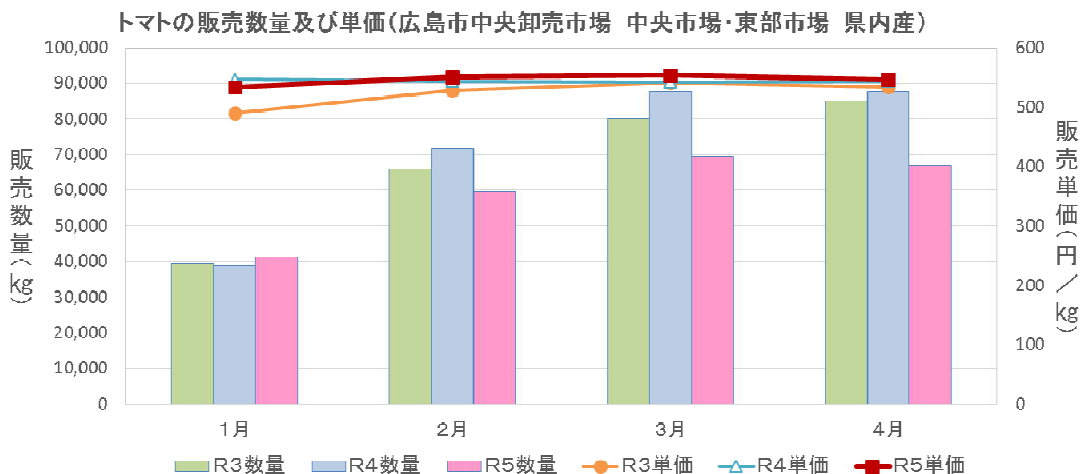
販売は順調で、概ね平年並みの価格で取引された。



b トマト

冬春トマトは、呉市等の県南部から出荷され、7月初旬頃まで出荷が予定されている。

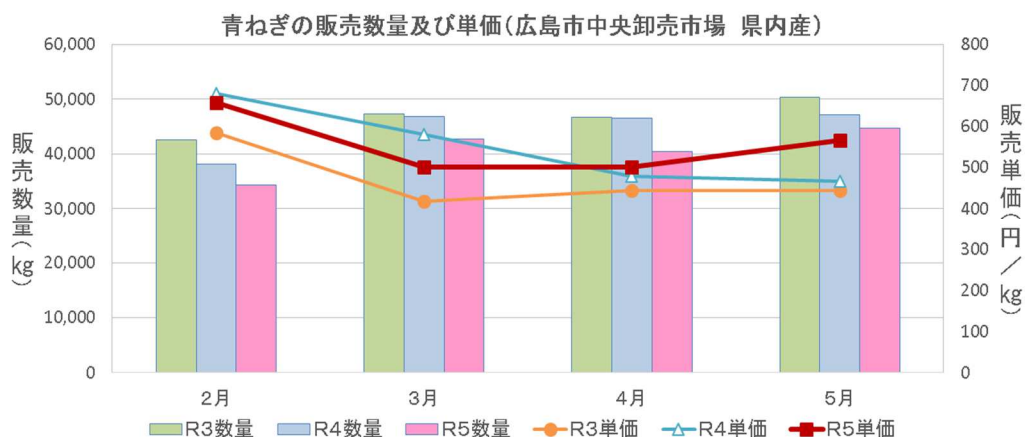
気温の上昇により3月から加温を停止したところ、夜間、施設内が過湿状態となって葉かび病がまん延し、小玉傾向が続いたことや、微量要素欠乏による生育遅延があったため、2月から4月の販売数量は前年より約2割の減少となった。この時期出荷されたトマトは契約販売が主体のため、価格は前年並みとなった。



### c 青ねぎ

安芸高田市等から周年出荷されている。

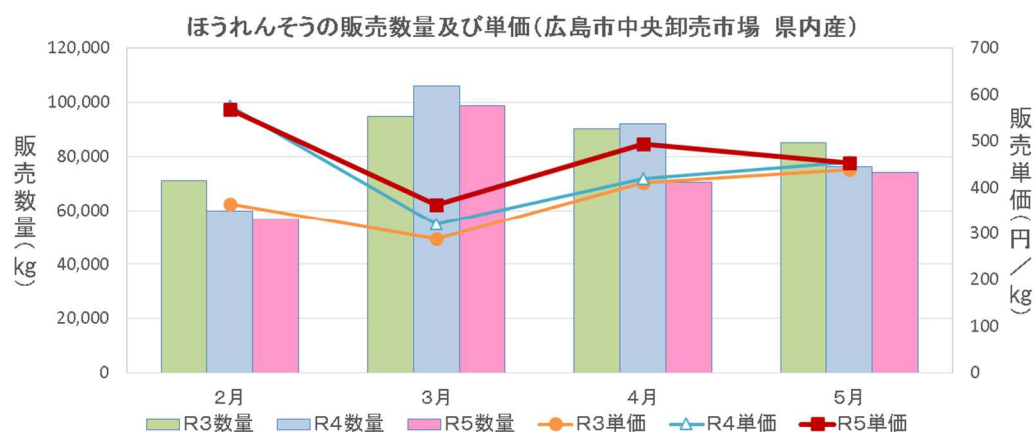
好天により順調に生育しているが、安値対策として県外への出荷量を増加させたため、県内での販売数量は前年に比べ約1割減少し、単価は平年より約1割程度高値で推移した。



### d ほうれんそう

広島市、庄原市等から出荷されている。

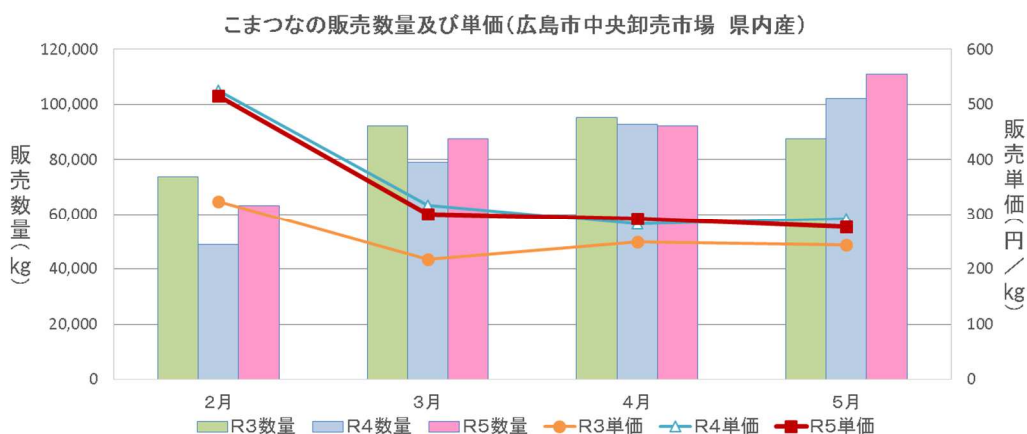
1月の寒波による生育の遅れや、安値対策として個々の生産者が播種を遅らせるなどの動きがあったため、販売数量は前年より減少し、単価は高値傾向となった。



### e こまつな

広島市、安芸太田町等から出荷されている。

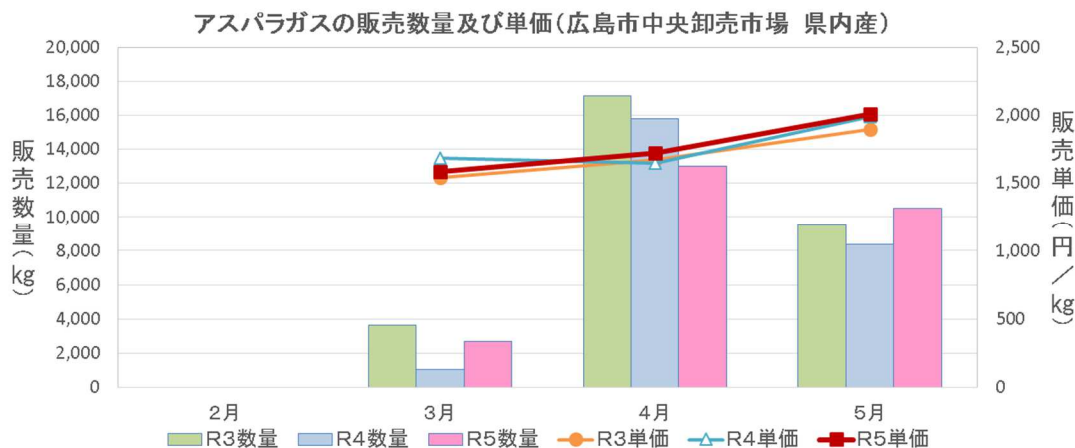
好天により生育が順調で、前年より販売数量が多くなったが、単価は前年並みを維持した。



f アスパラガス

三次市や世羅町等から出荷されている。

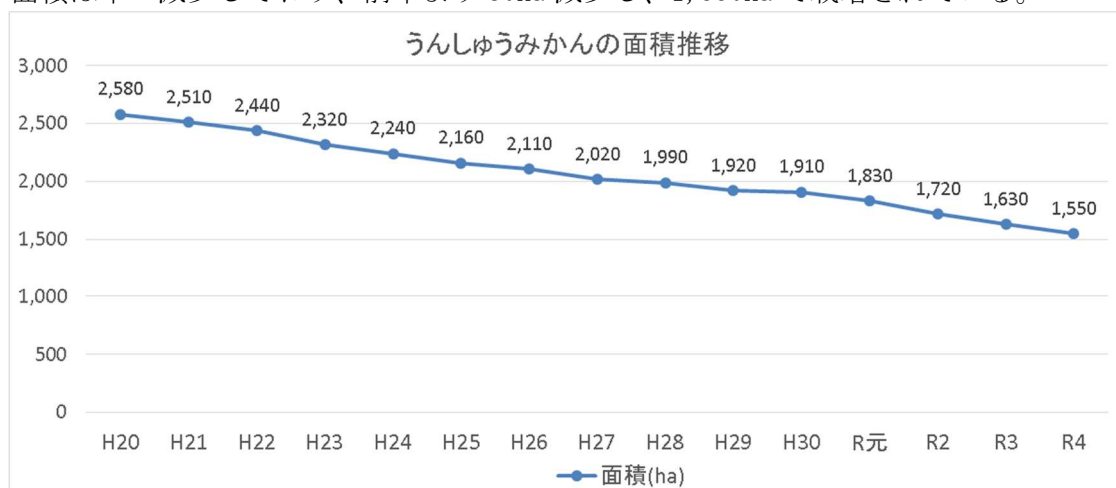
春芽は好天により順調に生育しており、3月から出荷が開始され、5月までの販売数量は平年並みとなった。単価は平年並みで堅調に推移した。



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん

面積は年々減少しており、前年より80ha減少し、1,550haで栽培されている。



令和5年産は表年に当たるため、生産量は前年より増加し、20,897tと見込まれる。生育は、平年より9日程度早く進んでいる。

本県産うんしゅうみかんの予想生産量

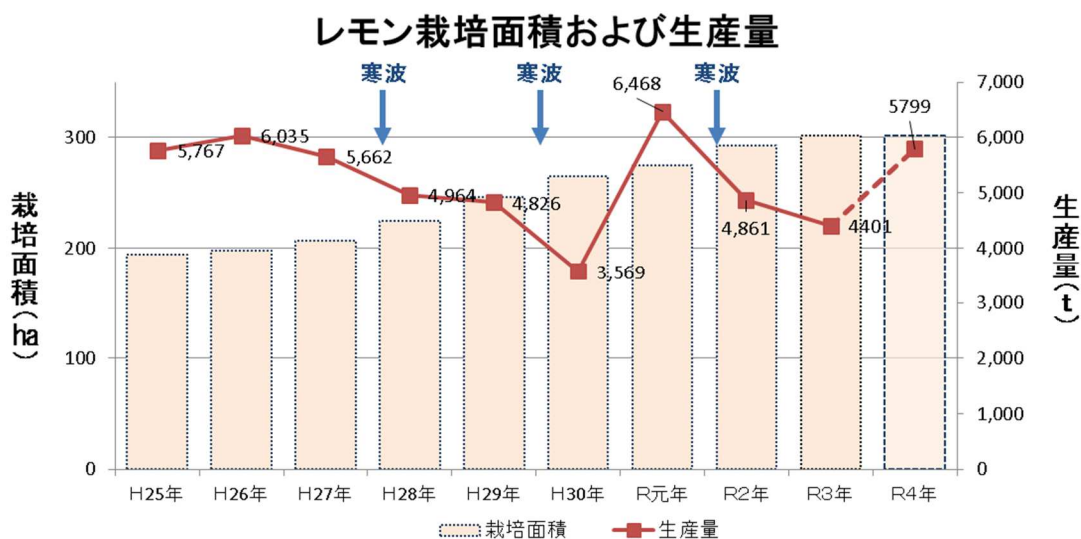
区分	生産量			対比		
	令和5年産 予想(t)	令和4年産 実績(t)	令和3年産 実績(t)	R5/R4 (%)	R5/R3 (%)	
うんしゅうみかん	極早生	3,730	3,560	3,920	105%	95%
	早生	8,790	6,410	8,680	137%	101%
	普通	8,377	6,420	9,410	130%	89%
	合計	20,897	16,390	22,010	127%	95%

※令和3年・令和4年産実績は「作物統計」(農林水産省)。

令和5年産予想は、JA広島果実連調べ。(開花・発芽状況調査から推計)。

**b レモン**

令和4年産の生産量は寒波被害からの回復により、前年に比べ32%増の5,799tとなる見込み。



※「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）。

令和4年産の栽培面積及び生産量はJ A広島果実連調べ（速報値）。

**c レモン以外の主要な中晩柑類**

令和4年産の生産量は、平年より少なかったため、販売単価は令和3年産比103～109%で取引された。

令和4年産 広島県産主要中晩柑類の生産・販売状況

品目	生産量			販売単価		
	t	令和3年比 (%)	令和2年比 (%)	円/kg	令和3年比 (%)	令和2年比 (%)
ネーブルオレンジ	1,747	101	92	304	109	118
はっさく	4,079	93	94	245	105	109
しらぬい	2,645	104	84	341	108	104
はるみ	1,197	92	91	381	103	106

(注) J A広島果実連調べ（令和5年5月時点）。

**d ぶどう**

面積は概ね現状維持で、268haとなった。

3月の高温により、発芽の時期は前進化したが、その後、やや気温の低い日が続き、平年並みの生育となっている。

尾道市産のデラウェアは、平年並みの5月26日から出荷が始まっている。

**e なし・りんご**

面積は概ね現状維持で、なしは135ha、りんごは87haである。

開花日は、なしは平年より5日～6日早く、りんごは平年より8日～10日早かったが、その後低温が続いたため、開花期間は長くなった。

一部の園地で凍霜害や、開花期の低温による着果不良が確認されたが、5月の着果量を基にした作柄は、なしについては平年よりやや多く、りんごは平年並みと見込まれている。

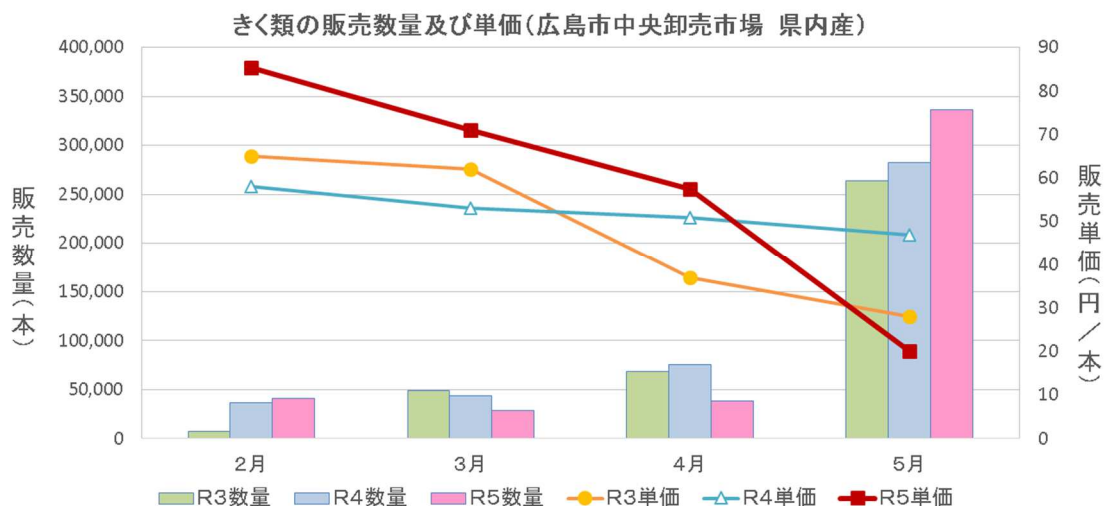
(I) 花きの生産状況

a きく

江田島市を中心とした南部から出荷されており、生育は概ね順調である。

2月～4月の冬菊は燃料価格の高騰により、加温が控えられたことから生育が遅れ、販売数量は平年より少なく、高値で推移した。

一方で、5月は夏菊の出荷が始まり、前年に比べ国内産地の作付面積が増えたことや、輸入が回復傾向にあることが要因となって市場全体の取扱数量が増加し、単価が下落した。

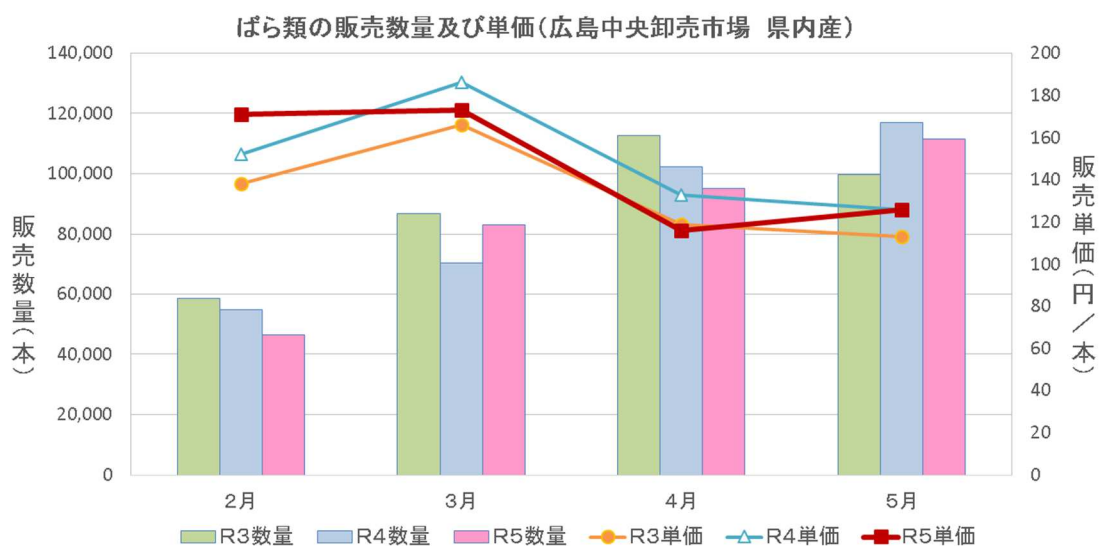


b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

2～4月は燃料価格の高騰や電気料金の上昇により、低めの温度管理を行ったことから、販売数量は平年より約1割減で推移した。

また、婚礼需要が戻っていないことに加え、物価高騰の影響で家庭用の花の需要が落ち込んでいること等から、前年より安値傾向が続いている。

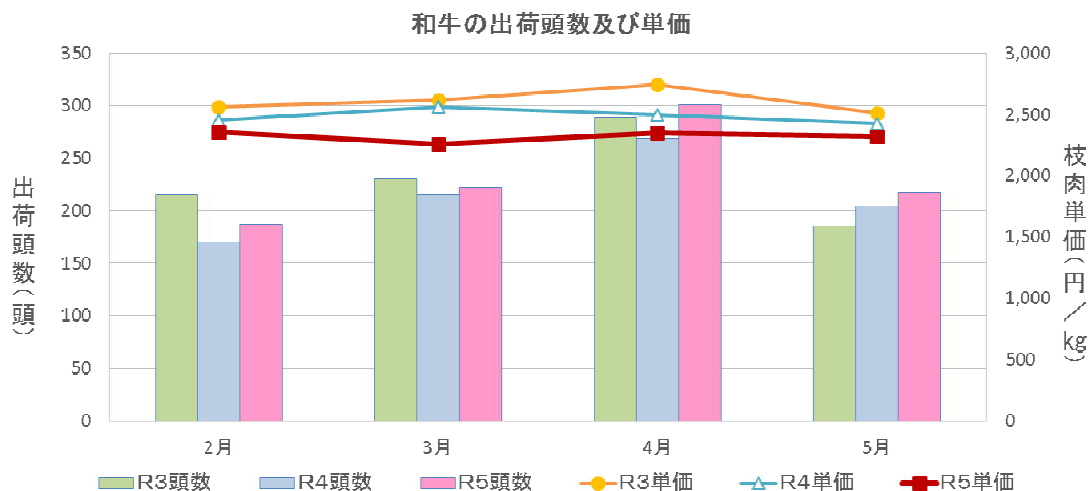


## イ 畜産物

### (ア) 和牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している。

枝肉単価は、相次ぐ物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりから和牛肉の引き合いが弱くなっており、前年を下回って推移している（前年比 88～96％）。



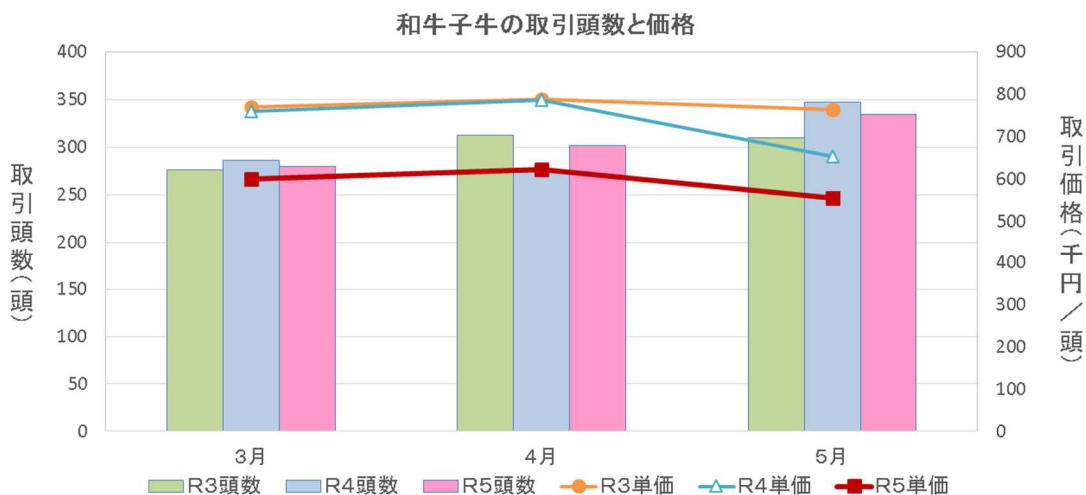
※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A4でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

### (イ) 和牛子牛

出荷頭数は、ほぼ平年並みで推移している（前年比 97%～110%）。

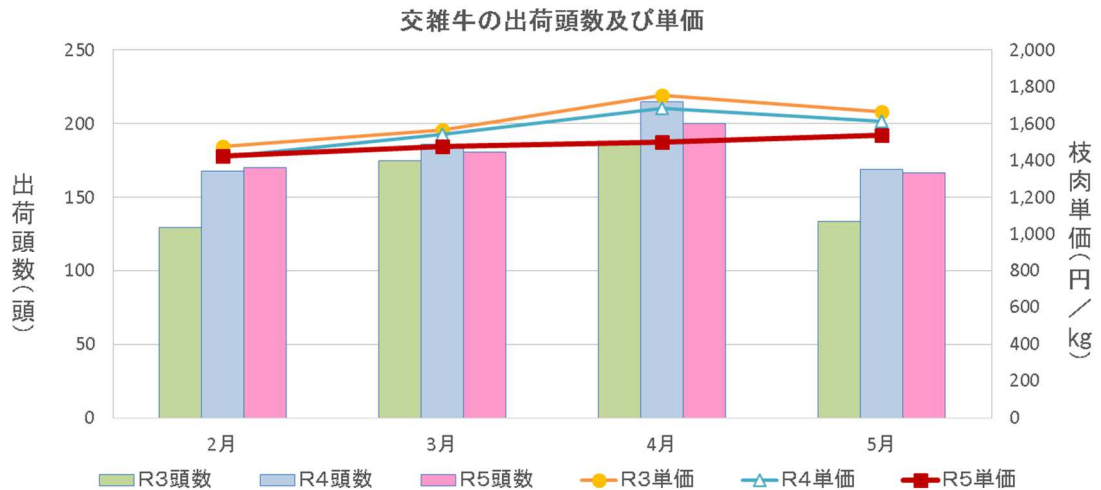
取引単価は、飼料価格等の生産資材高騰や、枝肉単価が下落傾向にあることにより肥育経営体の収支が悪化していること等から、前年を下回って推移している（前年比 79～85%）。



※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

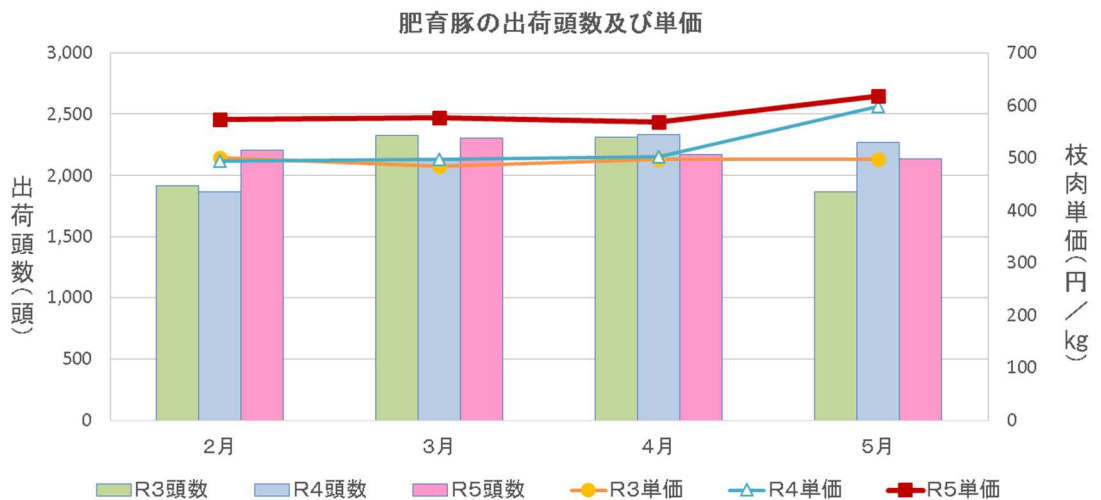
出荷頭数は、ほぼ前年並みで推移している（前年比 93～101%）。  
 枝肉単価は、前年をやや下回って推移している（前年比 89～100%）。



※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。  
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

出荷頭数は、月により増減はあるが、前年並みで推移している。  
 枝肉単価は、物価高騰の影響で相対的に安価な豚肉の需要が増えており、前年を上回って推移している（前年比 103～116%）。



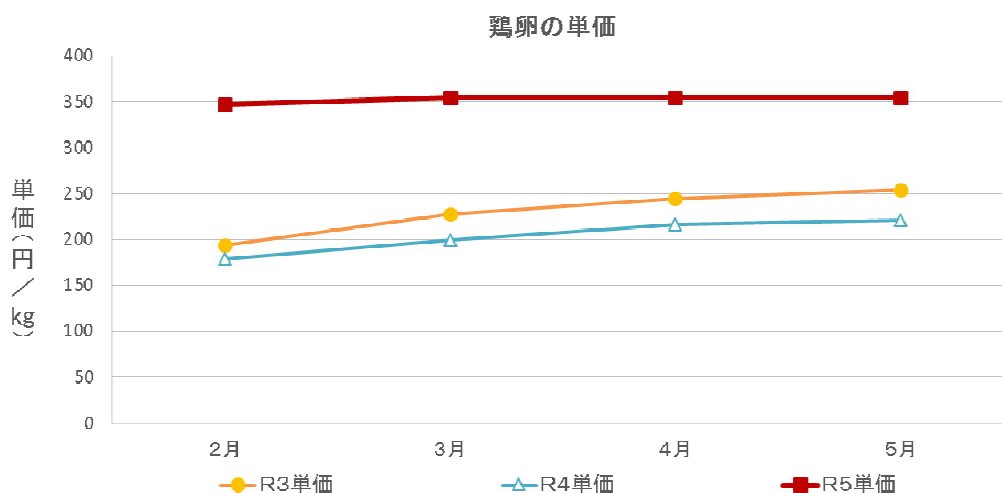
※「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産  
 ※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。  
 枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。



(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

高病原性鳥インフルエンザの影響により羽数が大幅に減少し、鶏卵の品薄状態が続いていることから、前年を上回る高値で推移している（前年比 161～194%）。

県内における鶏卵の供給は、品薄ながらも量販店での欠品は生じていない。

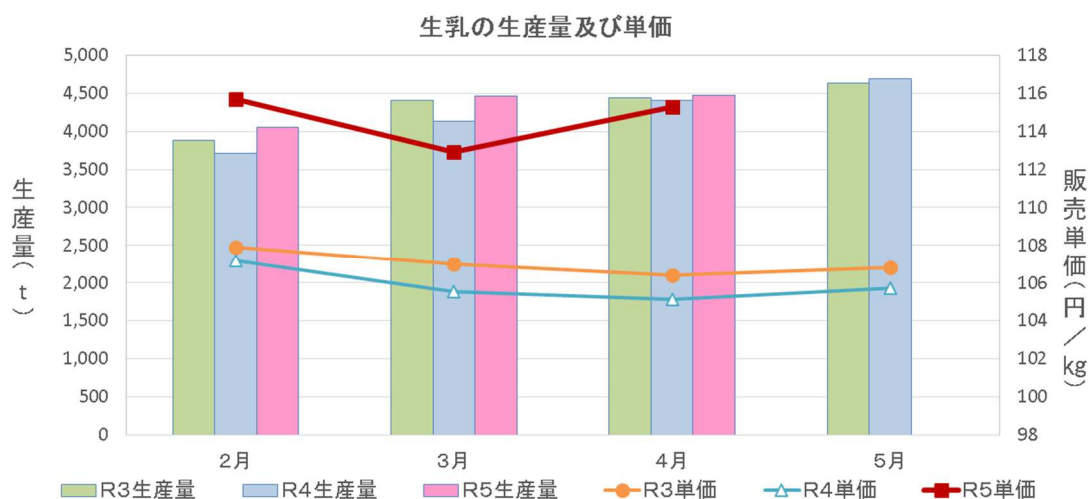


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年をやや上回って推移している（前年比 101～109%）。

生乳の販売単価は、令和 4 年 11 月から飲用向け乳価が 10 円/kg 値上げされたことを受け、前年より 7 円から 8 円程度高く推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料は、穀物相場が低落したことや海上運賃が値下がりしたことなどから、令和 5 年 4 月～6 月期において前期に対し平均 2,000 円/t の値下げ（全農系）となった。

粗飼料については、令和 4 年 11 月をピークに高騰し、その後やや下落しているが、依然として高止まりの状況となっている。

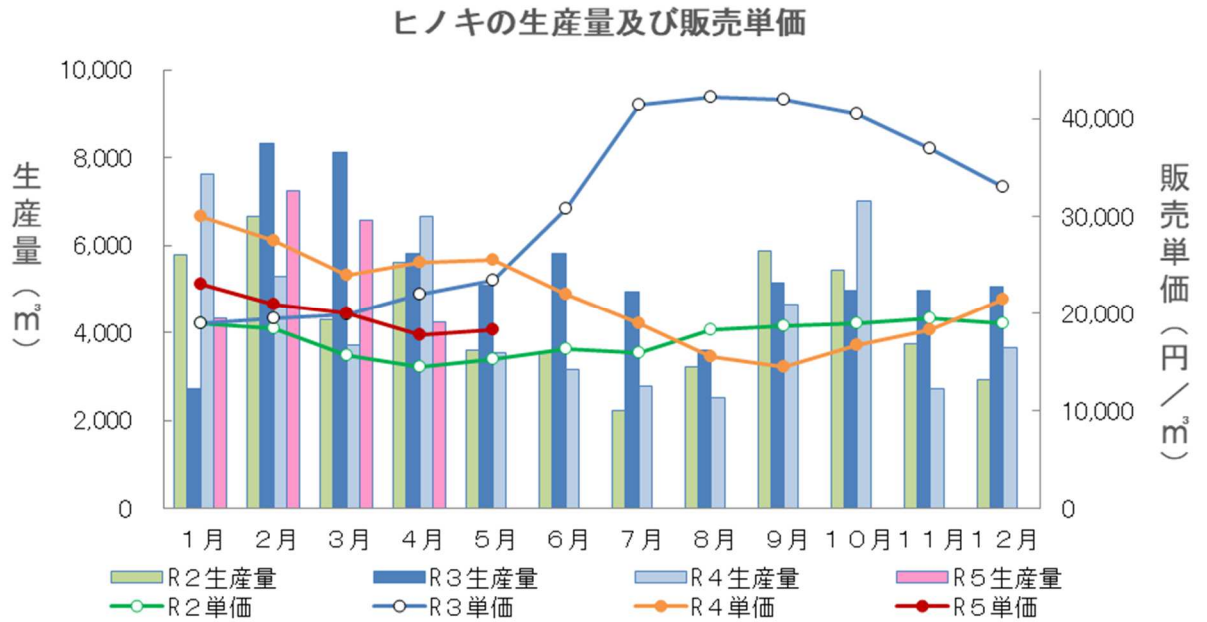
## ウ 林産物

### 木材の生産状況

ヒノキの生産量及び販売単価については、今年に入り木造一戸建の新設住宅着工戸数が減少傾向にあることや、隣県の合板工場火災の影響による受入制限が続いていることから、前年に比べ低い水準となっている。

しかしながら、いわゆるウッドショック（令和3年3月）以前と比較すると、生産量は同水準を維持しており、販売単価は高値で推移している。

引き続き木材の価格動向等を注視するとともに、流通コーディネーターと連携して需要先を確保するとともに、国の支援策について、関係団体等へ周知を行っている。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

エ 水産物

(ア) 水温

6月上旬の県内海域の表層水温は17.8～21.5℃で、平年差は-1.2～+0.9℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
6月上旬の水温	18.9～21.5℃	17.8～18.6℃	19.2～20.5℃
平年差	-1.2～+0.9℃	+0.3～+0.6℃	-1.1～+0.4℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物16品目の取扱数量は、マダイ、カワハギ、サワラ、キジハタの4品目で平年を上回り、特にキジハタは平年比284%と倍増した。一方で、ヒラメ等12品目で平年を下回った。特に、サヨリ、オコゼは平年に対し約2割と大きく下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、サヨリ、コウイカ、オコゼなど13品目で平年を上回り、アナゴ、カサゴ、キジハタの3品目は平年並みであった。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和5年4月）

品 目	市場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	57.6	79	95	843	134	115	25.4	77	112	739	133	108
クロダイ	13.9	109	71	343	126	112	13.2	126	82	346	121	109
カワハギ	12.9	68	39	1,067	116	199	7.6	82	101	1,307	127	154
スズキ	16.2	58	95	604	134	113	5.6	73	79	611	133	123
サヨリ	3.4	30	16	1401	188	211	3.2	44	17	1,420	222	208
サワラ	17.2	70	108	1,433	131	119	4.8	136	108	1,409	154	124
サゴシ	3.6	48	23	884	116	145	0.1	176	38	1,141	149	140
アナゴ	28.1	117	107	1,740	97	101	2.0	75	80	1,146	122	97
ヒラメ	6.9	66	79	2,095	141	140	1.8	70	92	1,955	135	142
タコ	8.8	110	64	2,167	112	157	3.4	148	57	2,355	107	161
コウイカ	2.9	58	25	1,202	130	205	1.1	90	53	1,400	125	195
オコゼ	1.5	70	35	2,368	125	180	0.5	53	21	2,273	139	177
シタビラメ	1.8	71	56	1,240	130	145	1.2	135	62	1,204	122	134
カサゴ	1.5	81	62	776	102	98	0.9	101	73	834	110	97
メバル	10.2	86	73	1,233	100	113	1.6	228	38	1,398	93	121
キジハタ	0.9	112	202	2,195	96	98	0.8	131	284	2,181	98	96

平年値は平成25年～令和4年の平均

(ウ) 養殖状況

かき養殖

令和4年度漁期の養殖かきは、10月1日から出荷が開始され、シーズン初めはかきのへい死が多く、心配されたが、1月頃からへい死率は徐々に平年並みに落ち着いた。

10月～5月までの平均むき身重量は15.0g/個（平年比96%）となっている。

現在、冷凍・乾燥かきの需要に対し供給不足の状態、冷凍・乾燥メーカー向けの販売は、平年比6割高の高値で推移しており、出荷は6月下旬まで続いた。

令和5年度のかき採苗対策については、昨年と同様に、国、県、広島市などが連携して、かき幼生の分布等を調査し、調査結果を直ちに生産者へ情報提供するとともに、それを受けて生産者が産卵用の母貝筏を広島湾北部海域へ移動させるなど、種苗の安定確保に向けた取組を進める。